



学校だより

3月号

第435号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

自然からの情報

校長 金森孝子

「『春—は名—のみ—の 風—の寒さや—♪』（「早春賦」の冒頭より）立春が過ぎ、暦の上では春になりました。この1カ月は、寒い日と暖かい日が交互に訪れる三寒四温を感じることも多く、子どもたちの服装も多様になってきています。インフルエンザによる学級閉鎖もあり、健康には引き続き留意したいものです。

2月10日は午前10時ごろから午後1時ごろまで雪が降り積もりました。天気予報をチェックしている子どもは「雪で遊べるかなあ。」「校庭に積もるかなあ。」と朝から天気が気になって仕方がない様子です。そんな中、雪も本降りとなり、中休みには校庭一面に雪が積もる状態となりました。「(副校長 放送)今日の中休みは、雪が降っていますが、校庭で遊んでも良いこととします。……」放送が終わるか否か、子どもたちは歓声を上げ、外へ飛び出して行きました。普段あまり外遊びをしたりしない子どもたちも、笑顔で校庭に出て行きました。積もった雪を足で踏みしめて感触を味わったり、走っている途中で友達と雪合戦を始めたたりするなど、雪に触れることを全身で楽しんでいました。中休みの後も、雪は降り続き、子どもたちは昼休みも同様に雪に触れ合うことを楽しみました。

そんな子どもたちを見ながら、「人工的なものから得る情報は少ない。自然はたくさんの情報に溢れている。」令和4年度都筑区すこやか子育て講演会の講師、高橋良寿氏(五感教育研究所 所長)の言葉を思い出しました。雪の静けさ、雪の感触、質感、冷たさ、結晶の大きさ、辺りの空気感、、、言葉にすることは難しいですが、得られる情報は無限です。子どもたちは、自身の感覚をフル回転させながら、雪の世界からたくさんの情報を得ていました。そして、その感覚を友達と分かち合い、遊びを見つけ、存分に自然や友達との関わりを楽しんでいました。自然と触れ合うって素晴らしい!!集団の中で自然と触れ合う体験を、山田小学校ではこれからも大切にしていきたい、と強く心に感じた出来事でした。令和4年度の教育活動へのご理解とご協力、ありがとうございました。



#####

令和5年度の教育活動について コロナ感染が収束したわけではありませんが、5月のコロナ5類移行を念頭に、現在、学校運営、教育活動等について、整理しているところです。これまでに決まった変更点をお伝えします。

- ①健康観察 ロイロノートによる体温等の報告は無用です。欠席連絡は、ロイロノートや連絡帳を用いてお願いします。(電話連絡は、緊急の場合のみをお願いいたします。)
- ②給食 黙食での喫食は行いません。(詳細については、令和5年度にお伝えします。)
- ③放課後校庭開放 コロナ5類移行後に、校庭開放を実施します。(時間については、令和5年度にお伝えします。)
- ④宿泊学習 5年生 三浦体験学習、6年生日光修学旅行を計画しています。
- ⑤あゆみ あゆみは、10月「中間期」3月「学年末」としてお渡しします。尚、「中間期」は、観点別評価のみで、所見の記載はありません。希望される保護者の方には、10月下旬に学習相談会として、個別の面談を実施します。
- ⑥授業参観 6月、12月の2回の土曜参観を計画しています。
- ⑦時間割 給食がある日は、15分の朝学習(8:25~8:40)を実施し、1時間目開始を8:40からとします。